

2013/02/26

JPO 近刊情報センター
技術委員会 (TC)

テスト環境の公開について

2013/03/06 (水) に予定されている近刊情報センターの「データ仕様改定」に先立ち、以下の要領でテスト環境を公開致します。

1. データ仕様改定

○EDItEUR の ONIX for Books 2.1 系に近刊情報センター独自の仕様を加えた現行の「データ仕様 1.0.1」を、最新の ONIX for Books 3.0 系に準拠した「データ仕様第 2 版」に改定します。

2. テスト環境の公開

日時： 2013/02/27 (水) 12:00～
テストサイト： <http://kinkantest.jpo.or.jp/> (「送り手」用)
(既存のテスト用 Web サイトです)
[ftp:// kinkantest.jpo.or.jp/](ftp://kinkantest.jpo.or.jp/) (「受け手」用)
公開方法 以下を参照
準拠するデータ仕様 「データ仕様第 2 版」(2013/02/26 版)

※ONIX2.1 系のバリデータは、「データ仕様 1.0.1」に準拠

3. テスト環境の公開方法

(1) 「受け手」のテスト環境

○本番と同様のディレクトリ構成から、同じ近刊書誌情報が記述された ONIX2.1 系版(「データ仕様 1.0.1」版)と ONIX3.0 系版(「データ仕様第 2 版」2013/02/26 版)のサンプルデータのファイルを受信することができます。

○03/06 以降、本番環境に設定されるディレクトリと同様のディレクトリ構成を既存テスト環境に用意します。

- 1) /ホームディレクトリ/onixfile.xml (ONIX2.1 系)
- 2) /ホームディレクトリ/onix3/onixfile.xml (ONIX3.0 系)
- 3) /ホームディレクトリ/onix3/onix_diff (ONIX3.0 系差分ディレクトリ)

※ONIX3.0 系ファイルを 1 階層下のディレクトリに配置します。

※ホームディレクトリは、FTP でログオンしたときのディレクトリです。

○02/26 の 15:00 に FBIC で統合処理された ONIX2.1 系ファイル（「データ仕様 1.0.1」版）から一部を抽出したサンプルデータと、そのデータを ONIX3.0 系版（「データ仕様第 2 版」2013/02/26 版）に変換したサンプルデータを、それぞれ ONIX ファイルとして指定ディレクトリに公開します。
それぞれのファイルは、FTP でダウンロードすることができます。

○ファイル名は、それぞれのバージョンとも従来と変更なく onixfile.xml とします。

※指定ディレクトリにおかれるサンプルデータは、実際にセンターに送られている実データの一部ですが、あくまでテストデータとして扱って頂き、本番環境にはご利用にならないでください。

※本番データと区別するため、サンプルデータでは、「入力項目表」のヘッダー情報「送信元会社名」にあたるタグの値(以下を参照)を、「テストデータ」に書き換えます。

1) ONIX2.1 系版（「データ仕様 1.0.1」版）

<Header>タグ下の<FromCompany>タグの内容を、「集配信センター」から「テストデータ」に変更します。

2) ONIX3.0 系版（「データ仕様第 2 版」2013/02/26 版）

<Header>タグ下の<SenderName>タグの内容を、「近刊情報センター」から「テストデータ」に変更します。

※指定ディレクトリにおかれるサンプルデータは、原則更新しません。

(2) 「送り手」のテスト環境

○ONIX2.1 系版（「データ仕様 1.0.1」版）と ONIX3.0 系版（「データ仕様第 2 版」2013/02/26 版）の、それぞれの ONIX ファイルのバリデーション・チェックをかけることができます。

※テスト環境で統合処理は行いません。

○ディレクトリ構成は、従来のテスト環境と変更ありません。

○ファイル名は、それぞれのバージョンとも従来と変更なく onixfile.xml とします。

○これまでの ONIX2.1 系（「データ仕様 1.0.1」版）の「バリデーション機能」（「JPO 近刊情報センターTEST 管理 Web」にログインして下さい）に、ONIX3.0 系（「データ仕様第 2 版」2013/02/26 版）のファイルをアップロードしても、それぞれのバージョンでのバリデーション・チェックをかけることができます。

○送信された onixfile.xml が、onix3.0 系なのか onix2.1 系なのかの判別は、<ONIXMessage>タグの release 属性の値で自動判別します。

release="3.0"なら 3.0 系として処理し、release="2.1"または release 属性が記載されていない場合は、ONIX2.1 系として処理されるものとします。また、それ以外の release 属性が指定された場合は、エラーとして処理します。

○ONIX2.1 系のファイルが送信された場合は、一旦 ONIX2.1 系のバリデートを行った後、そのファイルを ONIX3.0 系ファイルに変換し、改めて ONIX3.0 系のバリデートチェックを実行します。

※ONIX3.0 系（「データ仕様第 2 版」2013/02/26 版）のファイルのバリデートチェックは、EDItEUR の ONIX3.0.1 の XML スキーマ (xsd) によるバリデートチェックに、「データ仕様第 2 版」に対してより忠実に準拠した FBIC のスキーマによるバリデートチェックを追加したものになります。したがって、ONIX2.1 系のバリデート（「データ仕様 1.0.1」）は通っても、ONIX3.0 系に変換後、FBIC の「データ仕様第 2 版」のバリデートによって、エラーが発生する可能性があります。

※ただし、「入力項目表」の「読み」（すなわち collationkey 属性）の入力可能文字のチェックは、現状でも規定外（全角カタカナと半角スペース以外）の入力が多く、エラーが多発するため、現時点ではバリデートからはずしています。

以上